

令和六年度 大学院人文科学府修士課程第2期入学試験問題  
(朝鮮史学)

【問題 1】

次の日本語史料を現代韓国語に訳しなさい。ただし、取り消し線の引かれた箇所は訳さなくてよい。

※著作権保護のため原文画像は削除。下記出典より抜粋。

(出典：『本邦人在留禁止関係雑件』第24巻（外務省外交史料館所蔵）より)

## 【問題2】

「植民地近代化論」および「植民地近代性論」の視点による朝鮮近代史研究が、どのような経緯ではじまり、今日に至るまでどのように展開されてきたかを説明しなさい。そのうえで、「植民地近代化論」および「植民地近代性論」の視点による朝鮮近代史研究の展開に、宗教に着目した研究がどういった貢献をしてきたのかを、最低でも二冊以上の学術書に言及しながら、具体的に論じなさい。

## 【問題3】

次の項目①～⑩より三つを選択して解説しなさい。なお選択した項目番号を明記すること。

- ① 徐兢
- ② 『鄭鑑録』
- ③ 韓人社会党
- ④ 泗泚
- ⑤ 第三次朝鮮教育令
- ⑥ 異次頓
- ⑦ 国会フラクション事件
- ⑧ 仁祖
- ⑨ 事審官
- ⑩ 理事庁

【問題 4】  
次の英文を現代日本語に訳しなさい。

※著作権保護のためテキストは削除。下記出典より抜粋。

(出典: Keongil Kim, “Japanese Assimilation Policy and Thought Conversion in Colonial Korea,” in Hong Yung Lee, Yong Chool Ha and Clark W. Sorensen, eds., *Colonial Rule and Social Change in Korea, 1910-1945*, University of Washington Press, 2013, pp. 206-207. 作問の都合により注番号を削除するなどの修正を施した)